



社会福祉 法人 奈良市社会福祉協議会

あいでつながる♡わたしたちのまち奈良

ナラシ社協だより

1月号

JANUARY 2026

令和8年1月1日発行
〈第67号〉



CONTENTS

- 02 新年のごあいさつ
／第38回奈良市社会福祉協議会総会のご報告
- 03 キラッとひかる 子育て家庭の『今』に向き合う
～出逢った人たちとともに…進化する「ふれあい食堂あゆみ」～
- 04 特集 地域とともに育つ福祉の芽 社協での実習から見えるもの
- 06 福祉ホットライン 制度の枠を越えて人とつながる
- 07 社協事業報告～月ヶ瀬福祉センターでの取り組み～つながる
笑顔、広がる思いやり、子どもたちが主体になれる居場所づくり
／令和7年度社協会員募集中／令和7年度賛助会員のご紹介
- 08 スマホ困りごと相談～スマホを通じて広がる世代間交流～

新年のごあいさつ



社会福祉法人 奈良市社会福祉協議会
会長 西谷 忠雄

謹んで新年のお慶びを申し上げます。

旧年中は、皆様より温かいご支援とご協力を賜り、心より御礼申し上げます。

私たちは、「ひとりぼっち“ゼロ”プロジェクト」の理念のもと、誰もが安心して心豊かに暮らせる地域共生社会の実現をめざし、地域でのつながり・見守り・支え合い活動の推進とともに、災害に強いまちづくり・ひとづくりなど日々活動を重ねております。

これらの活動では、地域の皆様の声に耳を傾けながら、制度の狭間と言われる課題にも真摯に向き合い、新たな事業へも積極的に取り組んでまいりました。高齢者の暮らしの相談に応じる取り組みに加え、課題を抱えた子どもや親などが地域とつながることができる活動を通じて、世代を超えた地域づくりも進めています。

また、長期にわたり総合福祉センターの指定管理を担う中で、地域福祉推進の拠点となるべく、今後も虐待や親亡き後の問題など、現代社会が抱える課題にも誠実に対応し、必要な支援の充実を図ってまいります。

本年も、地域の皆様とともに歩み、誰もが支え合える社会の構築に向けて尽力してまいりますので、変わらぬご支援とご協力を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

結びに、皆様のご健康とご多幸を心よりお祈り申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。

第38回奈良市社会福祉協議会総会のご報告

昨年11月に、奈良市役所正庁にて開催された総会では、来賓の方より祝辞をいただき、本会会長より永年にわたり社会福祉に貢献された68名と5団体の方々に、表彰状が贈呈されました。

また、にいがた災害ボランティアネットワーク理事長の李仁鉄氏より、「平常時の地域活動と災害支援～能登半島での災害支援活動から～」というテーマで講演いただきました。

会長表彰受賞者の皆さま

表彰状

1. 地区社協の役員として永年にわたり地域福祉活動の推進に貢献された方

嶋本 義隆(都祁地区) 坂西 偉樹(月ヶ瀬地区) 西久保 徹也(月ヶ瀬地区)
岡田 紀久美(二名地区) 奥田 雅子(二名地区) 児玉 正(二名地区)
江口 知子(平城西地区) 野井 奈美子(平城西地区) 西岡 美弥子(左京地区)
塩出 彰(左京地区) 小田 一美(左京地区) 中川 崇(左京地区)

2. 永年にわたり更生保護事業に貢献された方

石本 博康

3. 社会福祉に関する奉仕活動を永年にわたり実施し、その振興に貢献された方

鎌田 幸子 森田 祥乃 栗野 照美 高木 恵美 内山 寛子 広本 典平 堀田 悦子
鈴木 健弘 なら子育てネットワーク アローハカルテット バルーンアートわかば
オレンジカフェ右京 バンビマジッククラブ

4. 福祉施設の職員として永年にわたり献身的に務められ、社会福祉の向上に貢献された方

奈良社会福祉院

矢野 由起子 東中 美彩樹 橋本 絵理 橋元 愛美 辻 恭子 児玉 純代

極楽坊あすかこども園

石川 陽子 左右 潤子 野田 萌

万葉福祉会

吉川 大輔

大倭安宿苑

鈴木 美保子 西川 真弓 松田 幸一 松尾 祐作 松村 忠宏 春永 人美

都祁すずらん苑

森田 泉 宇田 幸生 岸本 由喜 大西 さとみ 大井 秋代 中西 歩夢 三宅 修子

浦光代

福寿会

中村 洋祐 吉江 健一 久保 貴彦 福岡 純子 上田 魁 林 淳平

かしの会

山川 倫子 池田 覚 井上 祐子

仔鹿園

古川 美樹

和楽園

松本 智美 杉山 智一 山本 裕之 小原 一夫 上田 瀬莉 井谷 陽香 西本 隆子

掲載辞退者 6名 (敬称略 順不同)

子育て家庭の『今』に向き合う ～出逢った人たちとともに… 進化する「ふれあい食堂あゆみ」～

「お弁当をつくってもらえませんか？」そんな一言から始まったあゆみこども食堂の活動。今では地域の誰もが集える「地域食堂」として、たくさんの笑顔が生まれる場へと育っています。今回は、その歩みと生活支援コーディネーター（以下、SC）の伴走の様子をご紹介します。

2020年～◎

コロナ禍～

《おもたせ昼ごはん》*1からあゆみこども食堂へ

*1 NPO法人大宮地区社会福祉協議会が実施した
大宮小学校区の子どもを対象にしたお弁当の無料配布事業

コロナ禍で子どもたちは不安な気持ちだろうな…
地域で何かできることはないかな？

地域で活動するのに財源はどうしようかな？

そうだ！

北川さん、お弁当を作ってもらえないかな？

今西さん、こんな助成金がありますよ！
食材提供してくれる方もご紹介します！

— 登場人物 紹介 —



ふれあい食堂あゆみ
北川さん



大宮地区
今西さん



大安寺西地区
木平さん
このひら



SC
鈴木

地域貢献をしたいなと思っていたところでした！

いいですよ！

日に日に食数が増えて大変でしたが、
「おいしくて元気が出た！」などとお礼の手紙を
いただき、やってよかった！！

POINT!

＼SCの伴走ポイント！／

活動に欠かせない助成金情報の提供や
仲間づくり支援はSCの大切な役割です

あゆみこども食堂 開始

北川さん、助成金情報だけでなく
申請書の書き方も一緒に考えましょう！
素敵なボランティアさんいますよ♪

そういえば、こどもの居場所があったらいいなって
お隣の地区の木平さんが言っていましたよ♪

大安寺西地区にとって
良い風になるかも…
私たちの会館を使ってください！

北川さんたちのおかげで、
こどもの居場所の拡がりを
感じます。感謝です♪

2024年～◎

大安寺西地域ふれあい会館で
ふれあい食堂あゆみへ

POINT!

＼SCの伴走ポイント！／

いろいろな地域の「想い」を聴き、
時期を見ながら、
より良いコーディネートを行います

現在～これから◎

地域の家庭の声に耳を傾け、求められる
居場所の実現に向けて人とのつながりを
活かし柔軟に活動されていて素敵です。
新たな活動拠点のご相談の際も、想いを
うまくおつなぎできて良かったです。
今後もSCの「人とモノ、人と人をつなぐ力」
を発揮して応援していきますね！よろしく
お願いいたします。

できればわいわい遊んだりゆっくり話したり、
過ごし方を選べる広い場所があると良いのだけれど…

おもたせ昼ごはんへの協力を経て、こども食堂
を始めました！その中で、こどもだけでなく保護
者も困っているということがわかり、世代を問わ
ず集える地域食堂へと形を変えて、また食堂へ
来られない方のために宅食も始めました。



食後の交流時間の様子

しんどさを抱えるご家庭はまだまだ
多いと思います。そうした方々ともっと
つながれるように、地域やSCと相談
しながら進化し続けたいです。

お問い合わせ

生活支援コーディネーター〈中央エリア〉
TEL 0742-93-3294



地域とともに育つ福祉の芽 社協での実習から 見えるもの

地域の中で多くの人と出会い様々な経験を重ねる実習は、実習生にとってかけがえない学びの場です。今回は、本会の実習に関わる皆さんの声をお届けします。

写真:実習生の活動の様子

VOICE
01

実習生の声 ソーシャルワーク実習*での学び



武庫川女子大学 松本 華鈴さん

地域を思う住民の皆さんの姿が印象的でした。地域のためにこれからのことを会議で真剣に話し合う様子から、その思いを強く感じました。オレンジカフェでの交流も忘れられません。「寂しい」と話されていた方と音楽や会話を楽しむ中で

距離が縮まり、「また会おうね」と声をかけていただけたことが本当に嬉しかったです。

「伴走」という言葉も心に残っています。職員や地域の皆さんがつながりや主体性を大切にしている姿からその意味を実感し、専門職としての姿勢を学ぶことができました。

また、自主的に活動する地域の方々を見て「私も何かできないかな」と考え、実習後には災害ボランティアに登録し、災害ボランティアセンター設置・運営訓練にも参加しました。

市社協の皆さんは私の意見を否定せず、どんな言葉も受け止めてくれたので、疑問や戸惑いも安心して伝えることができ、学びを深められました。

* 社会福祉士をめざし、実践的な力を身に着けるための実習

VOICE
02

先生の声 より広い看護の視点を育む



奈良市立看護専門学校
佐藤 真由美先生

地域実習は、将来看護師となる学生がそれぞれの実習場所での学びを持ち寄り、学校で共有するというものです。地域の方々が抱える困りごとや、それを支える職種・サポートを知ることが目的となっています。

入院期間が短くなっている今、

学生には病院で見えるその人の一面だけでなく、「それぞれの人生を家族とともに歩んでいる人」として、より広い視野で捉えられるようになってほしいです。そして、退院後にその人がどんな環境へ戻っていくのかを想像する力を養い、成長することを願っています。



実習の様子

かかわりの中で気づくこと

病院実習の経験も少ない2年生ですが、社協での実習で子どもからお年寄りまでの様々な活動に同席させていただき、新鮮で多様な学びを得ています。ある学生は生活介護施設に行き、障がいに関する理解を深め、またある学生は、高齢の方々の集まりにペットシッターさんがおり、「ペット

も家族として考えるのだ」と驚いていました。

生活の場に身を置き、かかわりの中で学ぶことは実習の醍醐味です。体験の中から自分を見つめ直し、知識を得て価値観を変える瞬間を何度も目にしました。改めて人として学ぶ機会にもなっています。



寄り添う心が、笑顔をつくる

実習生が来ると、普段は会話が苦手な若者も自然と話しやすくなり、初めて関わる人との交流が広がっていきます。年代の近い学生との会話は共通の話題で盛り上がり、笑顔があふれる温かな時間が生まれます。こうした経験は、若者たちにとって人との

つながりの大切さを感じる貴重な機会となっています。福祉や看護を学ぶ皆さんには、教科書だけでは得られない「一人ひとりの声に耳を傾ける姿勢」と「寄り添う心」を忘れずに、日々の支援に活かしてほしいと願っています。



ハートハース
あなたのまんま (若者の居場所)
大竹 靖子さん



折り紙サロン 小川 郁子先生

世代をこえて、心がつながる

今回の実習では、若い実習生の皆さんが参加者の方々と関わることで、世代を超えた交流が生まれ、会話も自然と弾み、場がとても和やかになりました。実習生が丁寧に説明してくださる姿も大変印象的で、

実習生が互いに学び合える時間となったことを嬉しく思います。今後、実習生の皆さんが高齢者の方と接する機会が増えていく中で、今回の経験が少しでも役に立てばと願っております。



Internship Program at Shakyo 実習のひとコマをご紹介します



奈良県医師会看護専門学校の皆さん

地域の方々と一緒に指先を使い折り紙を楽しみながら、心温まる交流の時間となり看護の現場でも大切なコミュニケーション力が育まれる機会となりました。



青丹学園 介護福祉学科の皆さん

将来福祉の現場で関わることになる高齢者の地域での暮らしを知るため、万年青年クラブ連合会ご協力のもとボッチャ体験を行いました。

本会の思い

奈良市社会福祉協議会 実習担当職員 北出 直樹

市社協として実習生を受け入れることは、将来の福祉人材を育成するための使命であり責務だと捉えています。「社協職員になりたい」と思ってもらえることはもちろん、専門職として共に活躍し、地域福祉活動への理解者・活動者になることを期待しています。また実習は、内容を検討する過程や実習生の新たな視点に触れることで、職員や組織にとっても成長の機会となります。

市社協の実習では様々な人や活動との出会いがあり、人々の暮らしや生活課題、支援や活動を展開する側の思いや苦悩、経緯や背景などを実感していただけたと思います。こうした経験が、専門性の向上はもとより、人として成長していただける機会になると嬉しいです。なにより、「社協を実習先に選んで良かった」と思ってもらえるよう、安全・安心な環境づくりに今後も努めてまいります。

制度の枠を越えて人とつながる



「孤立を防ぎ、地域で安心して暮らせる居場所をつくりたい。」そのような思いから、富雄にある障害福祉事業所「あとりあ」では、制度や人の狭間のニーズに応えられるよう少し既存の枠を拡げた居場所づくりに取り組んでいます。

「あとりあ」が工夫している先駆的な取り組み

「あとりあ」は障がいのある人が自分のペースで働き、収入を得られる福祉の事業所です。利用するためには本来障害福祉サービス利用申請を行う必要があります。しかし、社会や人との関わりが希薄なひきこもりの人の中には医療受診や福祉サービスの利用手続きに心理的ハードルのある方もおり、福祉サービスの申請につながらない場合もあります。地域で孤立する人が、地域でつながりを作れるきっかけとなれるようにあとりあでは「安心できる開かれた居場所」としての機能を大切にしています。

ここ来ると
友達が
いる。

自分の家
みたいな
感じで
居心地が
良い。

ここに来て
仕事を
してみ
たいと
思うよ
うなっ
た。

あとりあ
利用者
の声

来ていい
と
言われ
たので
来てい
る。

予約や
約束を
しなく
ても
よいの
で行き
やすい。

家に電
気が通
って
いない
時に電
気を使
わせて
もらえ
た。

NPO法人ふぁ～ちえ 生活支援センターたむたむ荘管理者 刀根さん・あとりあ施設長 上原さんより



精神障がい者の家族会を通じて、医療受診につながらずに社会や地域から孤立している人の現状を知り、訪問支援を始めました。そうする中で「色々な人と話せたらいいのに」と考え、あとりあの場にお誘いして来てもらうようになりました。新しい取り組みを始めたことで、これまで社会につながらなかった人も社会とつながるきっかけになったと実感しています。あとりあでは、職員と利用者、利用者同士の自然な声のかけ合いから会話が生まれ、日々の生活の変化や回復していく様子を間近で見ることができの大きな魅力です。職員や利用者といった垣根がなく、障がいや病気のことなどライフステージにおける出来事を気軽に話すことのできるあたたかく開かれた場となっています。これらもあとりあが地域に開かれた場となるよう取り組んでいます。

「行ってみたい」から始まるつながりの輪

奈良市社会福祉協議会 重層的支援体制整備事業^{*1}担当 後藤より

あとりあさんの取り組みは、障害サービスや制度でつながることにハードルがある人にとって、「自分の関心事」や、「信頼できる人」を入口にすることができ、自然なカタチで様々な人や場と出会い、話をすることで、選択肢や可能性が広がるきっかけになっています。制度ありきではない「ケアされる／自分が自分でいられる場」のための社会参加支援に関心が高まっています。自分らしくその地域で安心して暮らすことができるようにこのような取り組みを今後も応援していきます。^{*1} 世代や分野を越えて、地域共生社会の実現に向けて、生活に困りごとを抱える人を相談支援や地域の支えでサポートする体制を創る事業。

お問い合わせ先

NPO法人ふぁ～ちえ あとりあ

奈良市富雄元町2-7-25 SSKビル 305・306号
TEL&FAX:0742-55-2301
E-mail:atria@kcn.jp

〈開所日時〉月・火・水・金・土曜(木・日曜、祝日は休み)
9:30~16:30
[電話での相談等 9:30~17:30]

旗・幕・カップ・バッジ
株式会社 野崎商店
TEL.0742-23-1343 FAX.0742-27-3760

E-mail: hata@nozaki.net

HP 野崎旗 で検索!

〒630-8424 奈良市古市町1886番地の1
TEL(0742)63-5500 (代) FAX(0742)63-6051
昭和7年(1932年)創設以来93年間
「和顔愛語」の福祉の心で運営
社会福祉法人 奈良市和楽園
生活困窮者自立支援専門員
介護職員専任中
奈良市和楽園

福祉車両のレンタカー
お気軽にご用命ください

軽自動車 ¥4,400/1日
普通車 ¥9,900/1日
営業時間 9時~19時

賛助会
日本福祉車未来研究会
Japan welfare future meeting club
http://www.294mirai.com/

ガラー・ジュモリ

奈良市北之庄西町1丁目11-3 TEL: 0742-61-5662(すずき)

～月ヶ瀬福祉センターでの取り組み～ つながる笑顔、広がる思いやり、 子どもたちが主体になれる居場所づくり

月ヶ瀬地区では三世帯世帯が減少し、高齢者と子どもが触れ合う機会が少なくなっています。そんな中月ヶ瀬福祉センターでは、住民の交流を広げ、孤立の予防や一人ひとりが新たな役割を見つけられる居場所として、月ヶ瀬地区社会福祉協議会・東部地域包括支援センター・ボランティアの皆さんと協力し、**月ヶ瀬カフェ UMEBA**を立ち上げました。

居場所にかかわる方の声

月ヶ瀬地区社会福祉協議会／

カフェから広がる
様々な居場所

ホールいっぱいに広がる淹れたてのコーヒーの香りに誘われて、毎月たくさんの方が来てくれます。「焼きたてのパンが食べたい!」の思いから始まったこの場所は、出会う・話す・繋がるをカタチにしてくれます。住民のやってみたいを叶えられる様々な居場所へと広がっていきたいです。

ボランティア／

コーヒーでほっとひと息、
繋がる場所

地域の方との交流を大切にしていた夫の思いを受け継ぎ、得意のドリップコーヒーで心ほぐれるひと時をお届けしています。「元気だった?」「また会えてうれしいね」そんな言葉や笑顔と出会うことが私の元気の源となっています。



こうした地域の声から…

地区社協・ボランティア・包括と連携し、**子どもの主体性を育む取り組みを開始!**

カフェ UMEBA
×
認知症
キッズサポーター
養成講座



認知症の寸劇



子どもたちがカフェでの接客にチャレンジ! 一生懸命な姿に参加者も笑顔に。

【接客をした子どもたちの感想】

- ・恥ずかしくて話せなかったけど、だんだん慣れてきた
- ・お客さんに「ありがとう」と言われてうれしかった

【東部地域包括支援センターより】

講座では、子どもたちには知識だけでなく体験を通して記憶に残り、興味が持てるよう工夫をしました。心理教育も兼ねた福祉分野の人材育成になればと思います。

今後もセンターでは、地域を担う子どもたちが身近なところから福祉活動に関われるよう、関係者と共に取り組んでまいります。

令和7年度

社協会員募集中!

- ① 個人会員(年間1口) 1,000円
- ② 施設・団体会員(年間1口) 5,000円
- ③ 賛助会員(企業等)(年間1口) 10,000円

お問い合わせ 総務課 0742-93-3100

令和7年度 賛助会員の 皆さま

令和7年10月20日時点

- ・(株)ガラージュモリ ・共同精版印刷(株) ・グループホームどんぐり
- ・(資)佐保・福祉総合相談センター ・(株)しあわせ家 ・(株)昭文社
- ・大和証券(株) 奈良支店 ・奈良交通(株) ・(株)奈良事務機
- ・奈良豊澤酒造(株) ・野村證券(株) ・ヒューマンヘリテージ(株)
- ・(株)堀川工務店 ・正木商事(株) ・(株)ミック ミック登美ヶ丘
- ・遊食彩KONISHI ・(株)ヨシケイ・ライブリー

(五十音順・敬称略)

いつもご協力ありがとうございます

スマホ 困りごと 相談

スマホを通じて広がる世代間交流



高齢者にもスマホの利用が求められる時代となりました。ただ、操作に不安を感じる方も多く、気軽に相談できる場はまだ限られています。こうした声を受け、北福祉センターは「スマホの使い方に困っている高齢者を支えたい」と、地域の学生と連携し、スマホ相談会を立ち上げました。

個別相談はゆったりとした時間設定で、操作の悩みを解決するだけでなく、「旅行先の行き方を調べたい」という相談者の声に「どこに行かれるんですか?」と旅行先の話で盛り上がることもあり、参加者にとって学生との雑談も楽しい時間となっており世代を超えた温かな交流が広がっています。

相談者の声

- 学生の皆さんの明るさに、こちらまで元気をもらえています。ずっと続けてほしいし、ずっと参加したいです。
- 高齢者がスマホを持たないといけない時代になった今、ショップに相談に行っても有料なんです。このセンターをよく利用するので、スマホ相談のチラシを見たのがきっかけで参加しました。時々雑談で脱線もしていましたが、とってもいい時間でした。楽しい時間はあっという間です。

〈スマホ相談スタッフ〉学生地域参画隊Convers 中村さんより

スマホ相談会は私たちが大切にしている「地域の声を聞き、若者の声を届ける」活動のひとつです。45分という限られた時間内にすべてを伝えることは難しいため、帰り際にメモを渡すなどの工夫もしています。定員オーバーになることがあるため、開催日を増やせるよう検討中です。今後も、来てよかったと思ってもらえる相談会を続けていきます。



各福祉センターで スマホ相談会やスマホ教室を行っています。

本会ホームページや各センターだよりをご確認ください。
(対象：奈良市在住の60歳以上の方)

本記事の問合せ先

北福祉センター
住所：奈良市右京一丁目1番地の4
TEL：0742-71-3501

編集 後記

「受援力」は私の好きな言葉の一つです。受援力とは人に頼り、助けを受ける力のことです。元々は防災用語として使われていましたが、今では暮らしの中で支え合う言葉としても親しまれています。私は人に頼ることが苦手でしたが、受援力という言葉と出会って人に頼ることは弱さではなく、乗り越えるための強さであると感じたとき、心がふっと軽くなりました。私を「助けられ上手」にしてくれた受援力を今後広く発信していきたいです。(編集委員N)

発行：社会福祉法人 奈良市社会福祉協議会
発行責任者：事務局長 稲葉 美和
〒630-8454 奈良市杏町79番地の4
TEL：0742-93-3100 FAX：0742-61-0330
E-mail：hureai@narashi-shakyo.com
URL：https://www.narashi-shakyo.com



奈良市社協

検索

ヨシケイキッチン!
福祉施設様向け宅食メニュー
朝食 3食セットで
659円 (税別)
無料試食キャンペーン開催中!!
まずは下記フリーダイヤルまで
YOSHIKEI 0120-074433

生活を支える 国の所得保障制度

障がい年金

・原則20～64歳が対象 ・一定要件あり
例)うつ病などの精神疾患、精神遅滞、発達障害
がん、難病、人工透析、人工関節、脳卒中、認知症
《無料相談受付中》 奈良市秋篠三和町1-9-7
090-8481-4867 あらき社労士事務所

暮らしの笑顔を支える
奈良ヘルスケアシステム(株)
福祉用具レンタル・住宅改修
TEL 0744-32-0902

